

令和5年度 皇學館大学入学式

4年ぶり、新入生全員が一堂に



全新生が揃い、厳粛に執り行われた入学式。入学生宣誓では記念講堂に力強い声が響き渡った



左から三船さん、田中さん、仲さん

伊勢神宮の傍で学びたいと本学を志望した神道学科の三船麗愛さんは「神道学科は全国から学生が集まるので、文化の違いなど情報交換をしやすい。祭式の作法等初めてのことがばかりで不安もあるが、学べるワクワク感の方が大きい」と意欲を見せた。高い就職率や教員になるための手厚いサポート体制にひかれ本学を選んだという教育学科の田中愛莉さんは「多様性を尊重できる先生になりました」と目指す教師像を語り、「理系科目の授業が楽しみ。海外短期インターシップなどの課外活動にも参加してみたい」と声を弾ませた。卒業後も地元である三重県に残りたいと進学を決めた現代日本社会学科の仲智輝さんは「自然に囲まれた環境でキャンパスの雰囲気も良い」と本学の印象を語り、「経営に関する授業をはじめ、部活動にも取り組みたい」と笑顔で話した。

4月4日、厳かな雰囲気の中、午前10時に開始した入学式。国歌静聴、令旨奉読に続く学長式辞で河野訓学

702名が入学

4月4日、厳かな雰囲気の中、午前10時に開始した入学式。国歌静聴、令旨奉読に続く学長式辞で河野訓学

長は数理教育コースの開設など令和5年度から始まる新しいカリキュラムに触れつつ、「本学の目指すところは学修者本位の教育体制。『教える教員』と『学ぶ学生』という二元的な図式から脱却し、自己実現のために日々自ら積極的に努力することを怠らないでください」と激励した。また、地方創生の一翼を担う「地(知)の拠点」大学に学ぶ者として、「自らの故郷と、この地域を支えていこう」という強い志を持った人材に育ってくれることを願っています」と期待を込めた。



「悔いのない大学生活を送るにふさわしい場となることを確信している」と話す河野学長

皇學館 学園報

第95号
令和5年5月



注目記事

- 2面 コロナ禍乗り越え、717名が新たな門出 令和4年度 学位記・修了証書授与式
- 3面 新任教職員紹介 ほか
- 4面 澤友美助教が日本生物教育学会 奨励賞を受賞 令和4年度「伊勢」と日本スタディプログラムを開催 ほか
- 5面 関本さん(現日4)が球団広報を体験
- 6面 高校で卒業式・入学式を挙行 合格者インタビュー ほか
- 7面 人事異動 シリーズ「卒業生奮闘中」ほか
- 8面 卒業生随想
- K-らいいふ(全学一体第169号) 退任よせて 令和4年度 CLL活動報告 ほか

令和5年度 入試状況

数理教育コースに想定以上の出願

令和5年度入試は、総志願者数が前年度比103.7%となった。中でも、教育学科の志願者数が前年度比118.8%と堅調な結果であった。教育学科では令和5年度より中高一種免許状(数学)の教員免許課程が認定され、「数理教育コース」を設置。数理教育コース入学用の入試には、志願者数233名と、想定していた以上の出願があった。また、国文学科が108.3%、現代日本社会学科103.8%(ともに志願者前年度比)と安定した結果となった。

令和6年度入試では数理系の生徒がより本学を受験しやすくなるよう数理教育コース用の入試を拡充する予定だ。

学部・学科	募集人員	志願者数	合格者数	競争率
神道学科	60	147	123	1.2
国文学科	80	196	161	1.2
国史学科	80	183	155	1.2
コミュニケーション学科	80	169	150	1.1
文学部	300	695	589	1.2
教育学部	200	816	589	1.4
現代日本社会学部	120	271	229	1.2
大学計	620	1782	1407	1.3

3年ぶりの新入生神宮参拝

コロナ禍で中断されていた中学校、高校の新入生神宮参拝が3年ぶりに実施された。中学校は4月11日、高校は13日に行われた。両日とも天候に恵まれ、中学校16名、高校327名が宇治橋を渡り、清々しい表情で玉砂利を踏みしめた。



前日に学んだ参拝作法を実践する新1年生【中学校】

全員で正宮の参拝と荒祭の遙拝



参拝の心構えを説く芝崎学校長(上)と、玉砂利を踏みしめ、神域を進む生徒たち【高校】

玉砂利を踏みしめた。全員で正宮の参拝と荒祭の遙拝を行い、入学を奉告した。生徒からは「宇治橋を渡ったとき身が引き締まる気分になった。正宮まで一歩一歩踏みしめて歩いた」「作法通りに参拝できるか心配だったが、みんな揃って拍手を打つことができてよかった」等の感想が聞かれた。



令和5年度は教育学部に数理教育コースの新入生を迎えることができた▼今から30年程前、H先生が何かの話から、ご自身が旧制中学時代に数学の苦手だったことを話された▼数学の問題がうまく解けない先生に数学教師が発した言葉は「無能」だったという▼先生は「無能というのは能力がないことであって、数学の能力に差はあるけれどもゼロではない」と国語学者らしく言葉を解釈しながら憤慨された。そして「ちゃんと神宮皇學館大学予科の試験にも合格したのだから」と付け加えられた▼予科の試験に数学が課せられていたかどうかはともかく、数学教師の言によれば、インテグラルの意味がわかる数理教育コースの新入生諸君は「有能」である▼ある数学者が「数学を学ぶとは種を蒔くようなことだと、感じる」とある(「数学セミナー」60巻5号)と述べている。どんな花が咲くかはわからないが、咲かせるためには種を蒔いておくことが必要だという▼数学は情緒だ、と言ったのは、かつて本学特別招聘教授を務められた藤原正彦氏だった。エレガントな解法を教える学びの種蒔きである。

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学 大学院 文学部 教育学部
専攻科 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

就職者ボイス

神職編

- コロナ禍の中、夢を叶えた先輩たちの声を紹介します。
- ①志望動機
- ②大学で注力したこと
- ③工夫、成功の秘訣
- ④後輩へのアドバイス

植木 美帆(神道)

【奉職先】賀茂御祖神社



①小さい頃から親と一緒に神社仏閣を訪ねる中で、日本の伝統文化を伝える仕事に就きたいと考えようになった。世界遺産の賀茂御祖神社には広大な「糺の森」があり、神々しい雰囲気が素晴らしく、この神社で奉職したいと強く思うようになった。②雅楽部の活動。3年次には委員長を務め、協調性やコミュニケーション能力が身に付いた。③神職養成部、友人との面接練習。④一つでも打ち込んだものは強みになる。自分は雅楽部での経験が非常に役立った。

喜舎場 朝喬(神道)

【奉職先】波上宮



①御朱印をきっかけに神社に興味を持つようになった。地元で就職したい気持ちもあり、両方を叶える波上宮への奉職を強く希望した。②祭式研究部に所属し、神職に不可欠な祭式作法の習得を目指した。3年次には委員長として田植祭やコロナウイルス鎮静祈願祭を斎行した。③神社奉仕には積極的に参加して実務体験を積み、神職になることへの決意を固めていった。明階総合課程を受講したことで理解が深まった。④早い段階から行動すること。奉職神社への敬神の念、必要な資格や技能はすぐに身に付くものではない。コツコツ実践してこそ奉職時に有利になる。

木下 和真(神道)

【奉職先】八坂神社



①実家の神社と歴史的な繋がりが加えることに加え、祇園祭に神職として携わりたかった。②野球部での活動でいろいろな学生と交流を持てたことがよかった。③図書館や神職養成部にある八坂神社の資料を暗記するまで熟読した。④書道や雅楽をできるようにしておけばよかった。いろいろな資格を持っておいて損はない。

佐藤 茉奈(神道)

【奉職先】椿大神社



①昔から神社が好きで、将来、神社や日本文化に携わる仕事がしたいと思っていた。②祭式研究部と薙刀部に所属し、4年間続けられたことは自信になった。さまざまなアルバイトを経験し、チャレンジ精神が身に付いた。③わからないこと、不安なことは何でも神職養成部の先生に相談した。過去の報告書や奉職されている先輩の話などを情報収集を積極的に行った。④気になる神社は早めに参拝し、実際の雰囲気を知っておくこと。私は奉職活動が本格化してから参拝を始めたので卒業論文の作成と重なり大変だった。



艶やかな袴、スーツを着こなし、学位記・修了証書を受け取る卒業生たち

卒業生の岡野匠さん(国史)は答辞で学生生活の4分の3をコロナ禍で過ごした

総代・各種表彰者

博士の学位	文学研究科神道学専攻博士後期課程	足立 涼
授与	文学研究科国文学専攻博士後期課程	井口 日奈
総代	文学研究科国文学専攻前期課程	安 保 花 音
	教育学研究科教育学専攻修士課程	田 中 美 乃
	神道学専攻科	植 木 美 帆
	文学部神道学科	西 岡 愛 梨
	文学部国文学科	世 古 千 夏
	文学部国史学科	山 本 智 子
	文学部コミュニケーション学科	福 徳 千 慧
教育学部教育学科	増 井 香 苗	
現代日本社会学部現代日本社会学科	清水 亜美	
恩賜奨学賞	現代日本社会学部現代日本社会学科	喜舎場 朝喬
大宮司賞	教育学部教育学科	山上 瑠衣
理事長賞	現代日本社会学部現代日本社会学科	中西 達彦
学長賞	文学部国文学科	辻 希乃華
統理賞	文学部コミュニケーション学科	石垣 天仁
長谷奨学賞	神道学専攻科	奥谷 啓太
	文学部神道学科	岡田 英亮
送 辞	文学部神道学科	植 村 蒼
	文学部神道学科	松 村 壮 透
答 辞	文学部国史学科	河 西 一 成
	文学部国史学科	岡 野 匠
ソーシャルワーク教育課程の卒業生に対する協会表彰(社会福祉士)		
	現代日本社会学部現代日本社会学科	上 村 道 也
ソーシャルワーク教育課程の卒業生に対する協会表彰(精神保健福祉士)		
	現代日本社会学部現代日本社会学科	坪 内 初 姫
保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰		
	教育学部教育学科	久 保 田 光 莉

令和4年度学位記・修了証書授与式が3月20日、本学記念講堂において挙行され、学部生(文学部・教育学部・現代日本社会学部)683名、大学院生16名、神道学専攻科生18名の計717名が新たな門出を迎えた。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から学科別に会場を分散するなど3年連続で規模を縮小してきた学位記・修了証書授与式。今年度は前回に続き神宮遙拝となったものの、全学

生が記念講堂に集う、華やかな式典となった。

河野訓学長は感慨深い様子で学生一人ひとりの顔を見つめ、「現代社会は『節目』を軽視する傾向にあります。本学はそれを大切にしてきました。今日は卒業式です。切磋琢磨した学友と一堂に会し、厳粛な式典を通して、清新な気持ちで本学を巣立っていただきたい」と

思います。節目を重なることで人は段階的に成長します。今日という日を区切り、生まれ変わり、決意を新たに、前途洋々たる大海に漕ぎ出してください」とエールを送った。

卒業生の岡野匠さん(国史)は答辞で学生生活の4分の3をコロナ禍で過ごした

令和4年度学位記・修了証書授与式

コロナ禍乗り越え、717名が新たな門出



倉田山で得た学びを胸に、いざ社会へ

就職決定率99.5% 令和4年度卒業生 就職状況

令和4年度学部卒業生696名(9月卒業生を含む)の就職状況は、就職希望者625名のうち622名の就職が決定し、就職希望者に対する就職率は過去最高の99.5%となった。

※学科別就職率、分野別就職者については別表参照

神社関係 49名が奉職(自家神社、学部のみ)

求人神社数162社267名(男子180名、女子50名、男女問わず37名)に対し、奉職状況は神道学科が男子32名・女子16名、国史学科が女子1名となった。大学院・専攻科等の学部以外は男子16名・女子2名であった。

教職関係 三重県小学校・合格者占有率は県内大学で11年連続トップ

小・中・高の教員に127名(正規/公立53名、講師74名)、幼稚園・保育園へは53名(正規/公立14名・私立35名、臨時・講師4名)が就職した。三重県小学校については全合格者269名中、本学は過年度卒業生を含め103名と合格者占有率は38.2%を占め、11年連続、県内大学でトップを堅持している。

公務員関係 過去最高の計49名が採用

国家公務員9名【法務教官・刑務官(4)・自衛官(4)】、地方公務員40名【三重県(福祉、学校事務、警察事務、教育支援センター指導員)・岩倉市役所・郡上市役所・鈴鹿

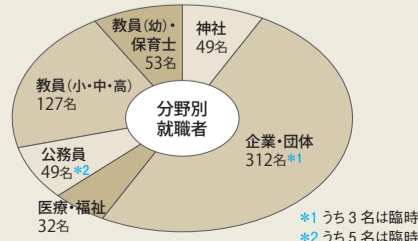
市役所(2)・津市役所(4)・松阪市役所(2)・伊勢市役所(3)・鳥羽市役所(2)・志摩市役所(2)・尾鷲市役所・名張市役所・菟野町役場・明和町役場(3)・多気町役場・度会町役場・紀北町役場・御浜町役場・茨城県警・警視庁・岐阜県警・三重県警(3)・京都府警・大阪府警・津市消防本部】が採用された。

企業関係 企業・団体へ312名が決定

業界別では、卸・小売業27.9%、建設・製造業18.9%、情報通信業7.7%、金融・保険業8.7%、教育・学習支援業5.1%、サービス業・その他35.4%となった。

今年度の就活環境

企業の採用意欲に回復の兆し 就職決定状況は昨年度差で2ポイント増 コロナ禍が3年目を迎え、感染拡大防止を踏まえた新たな形が定着し、アフターコロナを見据えて企業の採用意欲にも回復傾向が見受けられた令和4年度卒の就職活動。この状況下、学生の積極的な



令和4年度卒業生 就職状況 R5.1現在

学 科	卒業者 A	就職希望者 B	就職者 C	就職率 C/B
神 道	男	56	48	97.9%
	女	22	21	95.2%
	計	78	69	97.1%
国 文	男	36	32	100.0%
	女	53	48	100.0%
	計	89	80	100.0%
国 史	男	55	49	100.0%
	女	17	14	100.0%
	計	72	63	100.0%
コミュ	男	49	43	100.0%
	女	41	39	100.0%
	計	90	82	100.0%
教 育	男	104	90	98.9%
	女	144	127	100.0%
	計	248	217	99.5%
現 日	男	87	82	100.0%
	女	32	32	100.0%
	計	119	114	100.0%
合 計	男	387	344	99.4%
	女	309	281	99.6%
	計	696	625	99.5%

活動により、就職決定状況は3学部体制移行後で過去最高を記録した。

また、令和4年度卒の一部選考プロセスには対面回帰の兆候があった。「合同説明会・セミナー」はWeb59.0%(前年差9.2ポイント増)、対面30.5%(前年差2.1ポイント減)でオンラインが主流となったが、対面の「個別説明会・セミナー」は36.9%(前年差8.0ポイント増)、対面の「面接」も53.9%(前年差5.0ポイント増)となり、コロナ禍前並みの実施率に戻った。(出典：(株)リクルート就職みらい研究所「就職白書2023」)

今後、就職活動の早期化が強まり、採用手法が多様化する中で、本学では面談・面接練習・エントリーシート添削等、学生個々のニーズに寄り添い、引き続き、きめ細やかな支援を継続していく。

収容定員制限の撤廃で教室に活気

本学では新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和2～4年度の3年間、三重県のイベント開催基準を参考に教室収容定員を50%制限にして授業を行ってきた。令和4年12月27日時点の当基準では「大声なし」イベントの収容率上限を100%にしていることを踏まえ、また令和4年度中は目立った行動制限がなかったことから、令和

5年度の授業は教室収容定員の制限を撤廃。学生からは「ペアワークの距離が近くなったのでやりやすい」「隣席の初対面の人と友人になる機会が増えた」といった声が寄せられた。この流れを受け、中止していた履修証明プログラム、開放授業の受け入れ等も再開するなど、キャンパスがコロナ禍前の状況に戻った。



コロナ禍前の状態に戻った対面授業

4年ぶりに月例神宮参拝を再開

参拝報告(CLL学生広報隊)



上/静寂な雰囲気の中、正殿へと向かう
下/河野学長の講話に聞き入る学生たち

4月17日、4年ぶりになる月例神宮参拝に多くの皇學館生が参加した。新型コロナウイルス感染症の影響で長らく中止が続いており、学生の中には「スーツで参拝するのは初めて」との声もあった。神宮到着後、柔らかい朝日を浴びながら参拝を行うことで意識が高まってきた。正殿への参拝、別宮荒祭宮への遥拝に向かう揃った足音が静謐な神宮内によく響き、身の引き締まる思いがした。手水や拝礼の作法などは「皇学入門」の授業での学びを生かすことができ、これまでの積み重ねを感じた。参拝後、河野学長の講話では神宮のお参りと皇學館発祥の地「林崎文庫」について説明があり、「日々の勉学を疎かにせず、切磋琢磨して頑張ってください」と激励を受けた。学長の言葉を胸に、これからの生活をより良いものにしていくという気持ちになった。

3月25日、桜満開の中オープンキャンパスを開催



桜が見ごろを迎えた3月25日、高校新3年生、新2年生を対象に春のオープンキャンパスを開催した。3月にオープンキャンパスを開催したのは初めてであったが、付添者を含め226名が来場する盛況ぶりであった。

学部学科説明会をはじめ、個別相談、キャンパスツアー、クラブ・同好会活動見学を実施した。学部学科説明会では各学部長が説明者となり、それぞれの学部学科の特徴や学べる内容、将来の進路について説明した。来場者からは「興味が湧いた」「入学後を思い描くことができた」といったお声をいただいた。クラブ・同好会見学では排球部やピロフィリア同好会などが普段の練習や活動を行い、来場者は興味のあるクラブ・同好会でメンバーと交流するなど大変好評であった。

今後、6月11日(日)、7月9日(日)、8月10日(木)、8月11日(金祝)、10月28日(土)にもオープンキャンパスを開催する。未来発見セミナーや模擬講義など様々なプログラムを実施する予定だ。

新任教職員紹介

この春から新たに加わった教職員の方々を紹介します

- 1 出身地・経歴等
- 2 趣味・特技等
- 3 座右の銘
- 4 一言メッセージ

皇學館大学

国文学科准教授

木村 尚志

- 1 福岡県◆東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程修了
- 2 能楽、東京ヤクルトファン、寺社巡り
- 3 採果汲水
- 4 座右の銘は木の実を取り水を汲んで法華経を心得た前世の仏を表す言葉です。

国史学科特命教授

服部 直美

- 1 三重県◆皇學館大学文学部卒、鳴門教育大学教職大学院専門職学位課程修了、元公立中学校長
- 2 クイズ番組を見ること
- 3 医食同源
- 4 「教職」について、学生のみなさんと一緒に楽しく考えていきたいと思ひます。

教育学科特命教授

村瀬 雅俊

- 1 石川県◆東京大学大学院薬学系研究科卒、薬学博士
- 2 散歩、思索
- 3 「既知の未知」と「未知の未知」の弁証法
- 4 学び方を学びましょう。これが教え方を教える秘訣です。

教育学科特命准教授

吉田 京子

- 1 三重県◆元三重大学教育学部附属幼稚園教頭
- 2 テニス、スキー、音楽鑑賞、読書、MLBで大谷選手の活躍を観ること
- 3 失敗は成功のもと
- 4 いっぱい失敗して何度も立ち上がってきた子はとても強いです!

学生支援部学生担当書記補

伊藤 遼

- 1 三重県◆三重大学生物資源学部卒
- 2 プロ野球観戦

3 何事も真剣に取り組む!

4 皇學館をより良い学校にするために、何事にも積極的に全力で取り組みます。

企画部広報担当書記補

高山 航

- 1 三重県◆皇學館大学現代日本社会学部卒
- 2 将棋
- 3 一期一会
- 4 学生と共に成長していけるよう継続した努力を行ってまいります。

学生支援部就職担当書記補

松尾 静香

- 1 三重県◆皇學館大学現代日本社会学部卒
- 2 韓国ドラマを観ること、ダンス
- 3 一期一会
- 4 明るく元気に学生のサポートに努めます。

企画部企画担当書記補

松村 美玲

- 1 三重県◆愛知大学経営学部経営学科卒
- 2 音楽鑑賞
- 3 初志貫徹
- 4 初心を忘れず、日々成長していけるように頑張ります。

財務部管財担当事務嘱託

濱村 昌成

- 1 三重県◆元建設会社勤務(建築)
- 2 草むしり、散歩、家の設計
- 3 緑の下の力持ち
- 4 学生さんの快適・安全のために働きます。

学生支援部就職担当(就職アドバイザー)

森本 進

- 1 三重県◆駒澤大学経営学部経営学科卒
- 2 ウォーキング
- 3 姿即心
- 4 野球はすべて連携から成る素晴らしいスポーツ。野球を通じ、学生たちと共に日々成長出来れば。

学生支援部学生担当事務嘱託(精華寮)

歌代 勇祐

- 1 岐阜県◆皇學館大学教育学部卒。元ブータン王国柔道チームコーチ
- 2 旅行
- 3 前向き
- 4 寮生も私自身も充実した時間を過ごせるように努めてまいります。

学生支援部学生担当事務嘱託(クラブ合宿所)

手塚 隆之介

- 1 福島県◆皇學館大学教育学部卒
- 2 古着屋・パン屋巡り
- 3 雨を感じられる人もいれば、ただ濡れるだけの人もいる。
- 4 学生たちが充実した生活ができるようサポートしていきます。

学生支援部学生担当事務嘱託(精華寮)

山中 幸浩

- 1 三重県◆明野高等学校農芸化学科卒
- 2 昔はバイク、今はドラクエウォーク
- 3 安全第一
- 4 皆さんが安心して学生生活を送れるよう、常にサポートしています。

皇學館高等学校

高等学校副校長

田浦 雅徳

- 1 熊本県◆東京大学大学院博士課程修了、元皇學館大学教授
- 2 スポーツ観戦
- 3 天地万象皆わが師(濟々巒々歌の一節)
- 4 高校の発展のために微力を尽くす所存です。大学と高校の架け橋になればと思っています。

高等学校常勤講師・学監

角屋 貴久

- 1 三重県◆神戸市外国語大学卒、元県立高校校長
- 2 旅行、音楽鑑賞
- 3 一期一会
- 4 生徒の学校生活が充実したものになるよう、頑張りたいと思ひます。よろしくお祈りします。

高等学校常勤講師

杉本 力也

- 1 三重県◆皇學館大学文学部国文学科卒
- 2 野球、音楽鑑賞
- 3 臥薪嘗胆
- 4 生徒の皆さんと共に成長できるよう、全力で取り組んでいきます。

高等学校常勤講師

西野 晋弥

- 1 三重県◆皇學館大学教育学部卒
- 2 読書、音楽鑑賞
- 3 勇往邁進
- 4 生徒の皆さんと共に日々成長できるよう努めてまいります。

高等学校常勤講師

富岡 慶介

- 1 三重県◆近畿大学農学部卒
- 2 テニス、農業、ゲーム
- 3 万里一空
- 4 生徒と共に成長し、生徒の進路実現の力になれるよう精一杯頑張ります。

高等学校常勤講師

高橋 杏奈

- 1 三重県◆元公立小中学校養護教諭
- 2 旅行
- 4 皆さんが、健康で楽しく学校生活を送れるようにサポートしていきたいと思ひます。

皇學館中学校

中学校常勤講師

安保 花音

- 1 三重県◆皇學館大学大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程修了
- 2 読書、三味線
- 3 成せば成る
- 4 未熟ながら、生徒一人ひとりの成長や生活を支えていきたいと思ひます。

令和5年度 CLL活動 R5.4.21現在

- 1 鳥羽なかまち(仲間)で地域活性化に取り組もう!(鳥羽市)
- 2 ~伊勢ぶちたび~ EVモビリティを活用市内周遊促進事業(伊勢市)
- 3 TMKミライデザインプロジェクト(玉城町)
- 4 リニアインパクト最大化プロジェクト(伊勢市)
- 5 ぱりっ子会議から市政への提言プロジェクト(名張市)
- 6 えりはらのばんやさん(志摩市)
- 7 「広報いせ」特集記事制作プロジェクト(伊勢市)
- 8 皇學館大学 学生広報隊(伊勢市)
- 9 「Gift of Ise」プロデュースプロジェクト(伊勢市)
- 10 宇治山田駅前賑わい創出事業(伊勢市)
- 11 度会カフェリョクプロジェクト(度会町)
- 12 若者の投票率UP! プロジェクト(伊勢市)
- 13 農業の魅力発見! 南紀みかん援農隊プロジェクト(熊野市、御浜町)
- 14 産学官連携日本酒プロジェクト(明和町)
- 15 地域活性化サポーターズFIT(伊勢市)
- 16 The Histories of Ise 行政文化資源の利活用(伊勢市)
- 17 いせ移住PR支援プロジェクト(伊勢市)
- 18 みえ食の"人財"育成プラットフォーム商品開発事業(四日市市、南伊勢町) **NEW**
- 19 インクルーシブスポーツ推進プロジェクト~共生社会の実現を目指して~(伊勢市) **NEW**
- 20 だれもが働きやすい企業を表彰! ~男女共同参画キラリ☆プロジェクト~(伊勢市) **NEW**
- 21 大学生による「大学生向けごみ分別啓発活動!!!」(伊勢市) **NEW**

澤友美助教が日本生物教育学会奨励賞を受賞



賞状を手に喜びを語る澤助教

本学教育学科の澤友美助教が3月4日、日本生物教育学会奨励賞を受賞した。同賞は過去数年間にわたり活発な教育・研究活動を行い、その成果を日本生物教育学会が関わる発表の場で積極的に報告を行ってきた若手会員に対して贈られるもの。澤助教は昆虫を用いた食作用の観察の教材化に関する研究の論文発表、アジア生物教育協議会国際会議でのポスター発表及びベストポスター賞の受賞等が評価された。

澤助教は「この度は輝かしい賞を頂戴し誠に光栄に存じます。これまでご指導いただきました先生方や研究に協力していただいたスタッフの皆様へ感謝いたします。今後も理科教育の研究と理科が好きな教員の育成に尽力してまいります」と喜びを語った。

「英語で伊勢ガイドツアー」を実施

皇學館中学校



昨年度の2月28日に内宮・おはらい町にて、3年生が「英語で伊勢ガイドツアー」を実施した。

コロナ禍の影響で3年ぶりの実施となった本ガイドツアー。英語力向上と自国文化・他文化理解を目的に、チリ・ペルー・モンゴル・フィリピン・モザンビークと、世界各国からの留学生を伊勢の地に招き、内宮とおはらい町を生徒たちが英語でガイドした。伊勢神宮の歴史や手水・参拝の仕方、昼食時やおはらい町散策時には、てこね寿司や伊勢うどんなどの伊勢名物を英語で説明。留学生も熱心に耳を傾けながら積極的に質問をしたり気さくに優しく話しかけていただき、楽しくコミュニケーションをとる姿が見られた。

これまで行ってきたオンライン英会話や英語プログラムでの経験を生かし、英語によるコミュニケーションの実践と異文化交流の良い機会となった今回のツアー。今後も自国の文化を発信するとともに、他国の多様な文化や慣習、価値観に触れることで、国際的な視野をさらに広げていってほしい。

英語科 小林誠治

1年間で培った団結力を発揮 高校クラスマッチ

3月17日、18日にクラスマッチが開催され、1日目に男子はサッカー、女子はバレーボールを、2日目は悪天候のため体育館で男女混合バレーボールを行った。チームを編成するの



が大変なクラスもあったが、いったん試合が始まるとクラスメートたちが精いっぱい応援し、声援が体育館に響き渡った。そして試合中は1年間で培ったクラスの団結力を十分発揮することができたと思う。運営に関してはサッカー部やバレーボール部が中心となって協力してくれたため、2日間ともにスムーズに試合を行うことができ、予定通りに終了できた。1年間の最後となるクラスマッチだからこそ、みんなの一生懸命頑張る姿が見られたのだと思う。

総務副委員長 室田真里

Global グローバル

伊勢での学びを世界へ発信

令和4年度「伊勢」と日本スタディプログラムを開催

2月19日から3週間にわたり、令和4年度「伊勢」と日本スタディプログラムが実施された。伊勢市と本学との連携事業である本プログラムの開催はコロナ禍で中止となった令和3年度を除き、今回で9回目。日本の大



上/茶道と日本文化「茶の湯体験」
下/麻吉旅館を見学

学で学んでいる留学生を中心に8カ国、13名の参加者は神宮参拝や祭作法体験など多彩なフィールドワーク、体験型授業、講義を通じて伊勢や日本への理解を深めた。

大阪大学に所属しているルーマニア人のカルメン・タマシさんは本プログラムの構成を歴史、地理、宗教など学際的、体系的にアプローチでき非常に優れていると絶賛。大豊和紙の製紙場見学を通して「日本最古の紙幣とされる『山田羽書』など、日常生活に浸透している神聖なものに直接触れられる良い経験となった。『製造業と宗教的实践と貨幣の革新の関係』を学べた」と語った。

インド人で筑波大学から参加したアルチャナさんは「質素で自然味があるのが伊勢神宮の魅力。外宮から内宮へ歩いた時、心と体が自然と一体化したと感じた。伊勢を訪れないとこういう気持ちにはわかんないと思う」と話した。

学生サポーターとして活躍した小林楓佳さん(教育4)は「河崎や古市街道を巡ったり、伊勢弁を発表テーマにしていたロシア人留学生の調査研究を手伝ったりと、私自身初めての体験で勉強になった。参加者の学ぶ意欲、姿勢に感動し、何事にも興味を持つ大切さを痛感した」と、刺激を受けたようだという。

参加者は本プログラムでの学び、感想をSNS等で発信することによって、どのようなメッセージが世界に広がり、繋がりを生み出すのか、期待は大きい。

身に付いたのは「度胸」

ニュージーランド・ワイカト大学 春期語学研修プログラム

2月9日から3月5日にかけて、4名の学生がニュージーランド北島・ハミルトン市にあるワイカト大学で語学研修を行った。



新入生歓迎イベントの様子

参加した中岡知優さん(国文2)は「スピーキング重視の授業や現地の人と話す経験を通して外国人としゃべることへの垣根が低くなった」、長和華さん(教育2)は「先生が発音に厳しくなった。ホストファミリーは日本に関心が高く、少子高齢化問題について質問された」、小寺萌愛さん(教育2)は「音楽やゲームを取り入れた授業で楽しく学べた。いろいろな人

と関わることで自信が付いた」、小林幹仁さん(コミ3)は「会話中心のカリキュラムで日本人同士でも互いに高め合うことができた。オフの日にはなるべく外出し現地の人と交流して英語力を伸ばそうと心掛けた」とそれぞれの成果を語った。

「文法的に正しい英語でなくても案外通じることがわかり、間違ってもいいから話そうとする姿勢、度胸が身に付いたのでは」と引率した豊住誠教授。「海外の人は日本について知りたいと思っているし、日本人なら日本のことを何でも知っていると考えている。この研修をきっかけに日本の文化や歴史、社会問題について問われた時に英語で説明できるようになってほしい。そのためには、まずは日本語で自分の意見を持つことが大事。卒業まで時間はある。これからの皆さんの頑張り期待」と総括した。



最終日の朝食タイム。左から小寺さん、小林さん、中岡さん、長さん

Culture & Sports カルチャー&スポーツ

新年度がスタート! 「遠足」を実施 皇學館高校

4月17日、皇學館高校で遠足が実施され、1年生は志摩スペイン村、2年生は鈴鹿サーキット、3年生は長島スパワールドへ出かけた。春の陽気の中、新しいクラスの友人とアトラクションを楽しむなど、笑顔弾ける一日となった。

●玉木千賀(3年7組)

新学年になって初めての行事だったので、行く前からとても楽しみにしていました。アウトレットショップに行ったり、好きなアトラクションに乗ったりしました。有名なお店も訪れることができ、一日充実した時間を過ごしました。



●百々彩乃(2年4組)

2年生となり、初めての遠足に行きました。行き先は鈴鹿サーキット。天候は晴れて遠足日和となりました。ジェットコースターに乗ったりパンケーキを食べたりして新しい友達と交流、楽しむことができました。



●大川純蓮(1年9組)

幼い頃から幾度となく訪れたことのある場所ですが、新1年生のみんなと制服を着て訪れるスペイン村は、これから始まる高校生活への期待と希望のワクワク感も相まって、いつもと違う清々しいひと時となりました。



修了証書を手にした関本さん

今回のビジネススクールのグループは主にまちづくりに携わっている方と、選手とのコミュニケーションが求められるチームマネージャーの方に話を伺った。事前に取材対象者の仕事内容や経歴などを下

今回このビジネススクールに参加したこと

で、普段関わることのできない他大学の学生や球団で働く方と話をし、意見を交わすことができた。私自身、ベイスターズが以前から好きで、球団の取組みについてはある程度知っていた。しかし、私のようにチーム

でもなく、そうでない人に関心を持ってもらうための取組みや工夫を学べ、視野が広がった。普段当然に感じていることが実は当たり前ではないことも多くある。多くの人と関わることで見えてくるものがあると感じた4日間であった。

今回私は3月12日、14日、15日、25日の4日間、プロ野球の横浜DeNAベイスターズが主催する「大学生向け横浜スポーツビジネススクール」に「広報編」に参加した。

2日目は実際に球場へ行き、試合を観戦することで1日目に学んだ取組みを肌で感じる事ができた。試合後に三浦大輔監督にインタビューを行った。時間の関係上、私が直接質問することはできなかったが、三浦監督の人間性や選手を信じている姿勢が感じ取れた。

3日目はグループごとに球団スタッフの方にインタビューをした。私のグループは主にまちづくりに携わっている方と、選手とのコミュニケーションが求められるチームマネージャーの方に話を伺った。事前に取材対象者の仕事内容や経歴などを下

今回このビジネススクールに参加したこと

で、普段関わることのできない他大学の学生や球団で働く方と話をし、意見を交わすことができた。私自身、ベイスターズが以前から好きで、球団の取組みについてはある程度知っていた。しかし、私のようにチーム

関本さん(現日4)が球団広報を实体经济験

現代日本社会学科4年 関本陸人

多くの人と関わることで見えたもの

大学生にスポーツビジネスの世界を、広報の仕事を通じて学んでほしいと、横浜DeNAベイスターズが主催した「大学生向け横浜スポーツビジネススクール」に関本陸人さん(現日4)が参加。3月12日、14日、15日、25日の4日間、監督、球団スタッフへのインタビューや企画の立案等を通じ、伝える力や球団広報の現場を実践的に学んだ。

調べ、メンバー同士で共有。実際にインタビューをした後は、発表という形で内容を他のグループに報告した。自分の持つ持っている考えをわかりやすく、的確に伝えることの重要性和難しさを感じた。

4日目は今までの3日間学んだことから広報企画案を各自作成し、他のメンバーや球団の広報の方と共有した。



横浜スポーツビジネススクールの参加者、球団スタッフとの記念撮影。最後左から4人目が関本さん、同8人目が三浦監督

キオ オープン 2023

予約
不要
無料

Kogakkan University

未来が広がる スペシャルDAY

6/11 sun 7/9 sun
8/10 thu 8/11 fri 10/28 sat

■ 12:30-17:00 (10/28のみ 10:00~12:30)

Event information

皇學館中学校

- ◆ 皇中祭(文化祭) **9/17(日)**
- ◆ オープンスクール 部活体験会など **6/25(日) 9/9(土) 9/17(日) 11/5(日)**

皇學館高等学校

- ◆ オープンスクール
- 第1回 **9/2(土) 9/3(日)**
- 第2回 **10/15(日)**
- 第3回 **11/11(土)**

中・高・大合同企画

- ◆ 皇學館 DAY
- 皇學館高等学校吹奏楽部 第16回定期演奏会 **9/18(月・祝)**
- 場所: 三重県文化会館・大ホール

詳細は各校HPをご確認ください

合格者インタビュー

夢を実現すべく志望校に合格した3名に今後の抱負や後輩へのメッセージを語ってもらった。

予習、復習を大切に

前田紅葉 【進学先】名古屋大学 法学部



私がこの3年間、特に大切にしてきたのは授業と授業の予習、復習、模試の復習です。いらない科目はありません。私は3年間、一番前の席ですべての授業を真剣に受けました。家庭や保健、主権者教育なども理科や社会と関連があるため、受験勉強で役に立ちました。一般で出願する予定だったので必要ないと思っていた進路探究も、その後、推薦で出願することになったので志望理由書を書く際にとても助かりました。模試は復習が大切です。私は1年生のときから、模試は必ず毎回受け、丁寧に復習しました。早くから模試を受けて、模試のために勉強し、復習するという習慣を付けることが大事です。また、模試で点をとるためには課外授業が有効です。私は3年間、受験に必要な科目の課外は全部受け、必ず予習をしました。英検、数検、漢検は勉強の目標になり、入試にも利用できました。ニュースを見て、興味のある記事は詳しく調べたことも、時事問題や英検のライティング、志望理由書などに役に立ちました。役に立つかわからなかったことが、後になって役に立つというのはよくあることです。自信をもって勉強し続けてください。

自分に合った勉強スタイルを研究

高橋彩 【進学先】愛知教育大学 教育学部



受験勉強において一番大切なのは、自分にあった勉強スタイルを研究することだと思います。勉強中に集中力が切れ、スマートフォンをすぐに触ってしまう自分がとても嫌でしたが、苦手分野の解説動画などを見ることで有効な時間に変えることができました。志望校について詳しく調べることも肝心です。私は第一志望の大学に面接と共通テストを利用する入試があることを知り、友人や先生方に協力していただき集団面接の練習をしました。また、わからないことを恥ずかしいと思わないことも大切です。質問できる環境に感謝の気持ちを持って、どんどん質問してください。私は部活動に所属していたため、本格的な受験勉強を始めた時期は遅かったのですが、毎日の授業や定期テストを大切にしてきたことと、引退と同時に受験勉強にしっかりと切り替えたことが合格に結び付いたのではないかと思います。日々の学習を大切に、皆さんが悔いなく受験に向き合えることを心より祈っています。

得意科目を使って勉強の習慣付けを

福田昂太 【進学先】三重大学 人文学部



寮生活や部活動で思うような勉強時間の確保が難しかったのですが、定期テストの期間は特に集中して勉強することを心がけました。おかげで基礎を押さえられ、スムーズに受験勉強を進めることができました。受験勉強を始めるにあたって、まずは得意科目を伸ばすことに専念しました。なぜなら、得意科目の方が抵抗がなく、継続して勉強できるからです。そして、ある程度勉強の習慣ができてから苦手な科目も並行して勉強するようにしました。また、学校の図書室や進路資料室、市の図書館など勉強する場所を数カ所作るようにしました。そうすることで集中が切れた時などに移動して気分転換を図れます。さらに、一緒に勉強する仲間を作りました。最後に、受験日が近づいてくると緊張したり不安になると思います。しかし、それはほかの受験生も同じです。そして、どれだけ悩んでも本番は勉強してきたことしか発揮できません。あまり気負わずにリラックスして力を最大限に発揮できるように自分を信じて頑張ってください。

高中で卒業式・入学式



式辞を述べる芝崎学校長

3月1日、皇學館高校第58回卒業証書授与式が大学記念講堂において挙行され、本校卒業生としての自負を胸に371名が巣立った。大川慶也さんは答辞で「3年間で学んだ一番大切なことは“感謝”」「コロナ禍で何をすることも制限があったからこそ特別な絆で結ばれた」と述べ、「支えてくれる人たちへの感謝を忘れず、充実した3年間を過ごして」と後輩へメッセージを送った。同月18日には皇學館中学校で第42回卒業式が執り行われた。



答辞を読み上げる大川さん(上)と福原さん(下)

芝崎俊也学校長は「コロナ禍で『あたりまえ』に毎日過ごせることの大切さに気

付き、日々の生活に感謝する気持ちがより高まる一方、制限された中で育んだ力、創意工夫は、予測困難な時代を生き抜くための礎を私たちにもたらしたとも考えることができる」と卒業生に思いを語った。

4月8日、皇學館中学校の入学式が同校セミナーホールにおいて、皇學館高校は同月9日に大学記念講堂にて執り行われた。中学校16名、高校327名の新入生が真新しい制服に身を包み、緊張の面持ちで



中学校入学式宣誓

参列し、新入生を代表して中学校では小林なな子さんが、高校は内山真志さんが宣誓した。

式辞で芝崎学校長は「伊勢神宮をいただくこの地で神道に基づき、正しく明るく、直き心の精神を身に付けた生徒をすべての教育活動を通して育てています。本校の伝統と流れる精神に誇りを持ち、その果たす社会的役割をしっかりと自覚してください。皆さん一人ひとりが充実した学校生活を送ってもらうことを心より願っています」と期待を伝えた。

中学校遠足

3月3日、全校生徒での遠足(奈良方面)を実施した。当日は橿原神宮正式参拝の後、石舞台古墳・奈良県立万葉文化館を見学。橿原神宮ではこの地が日本建国・神武天皇即位の地であること、御神徳が開運と延寿であることなど、この国の歴史や文化について詳しく説明していただいた。石室古墳としては日本最大級の石舞台古墳



橿原神宮の外拝殿にて

では実際に中に入り、その大きさに圧倒された。万葉文化館では「万葉集」を中心とした資料や古代遺跡などの復元展示に、まるで過去にタイムスリップしたかのように、当時の生活や文化を感じ取ることができた。以下に生徒の感想を抜粋して紹介する。

- 「国民が一つ屋根の下で家族のように仲良く」という神様の言葉から橿原神宮の屋根は大きく造られ、私たちの立っていた所は200人、写真を撮った所は500人入ると聞いて驚いた。(1A 黒田若菜)
- 石舞台古墳はどうやって積んだのか不思議に思うほど大きい石が積んであり、それが崩れていないことにびっくりした。(1A 迫本菜那)
- 万葉文化館で見た柿本人麻呂の動画では映像・音楽・ライトが組み合わさり、異空間に入ったような不思議な体験ができた。古代の人々の生活が再現されていて、その時代に入り込んだような気分になった。(2A 伊東亜里紗)

卒業生随想

春からそれぞれの志す道を歩き始める卒業生たち。学生生活を振り返り、彼らの胸中に去来するさまざまな思いを語ってもらった。

神職を目指し、進んできた道

神道学科 泉 京華

奉職先 出雲大社



私は大分県出身で、家は神職の家系ではない。元々書道と華道を幼い頃から習っていて、日本文化の素晴らしさを伝える神職になりたいと思い皇學館大学への入学を決めた。

初めて神社や祭式についての講義を受け、神道という学問を学んだ。卒業論文では朝廷から宇佐神宮へ派遣された宇佐使について調べ、自分の考察を述べた。明階総合課程の講義では、先生方から神職を目指した経緯や神職としての心構えなどを教わった。

一般家庭の私が神職になれるか不安に感じた時期もあったが、親や先生方、友人の支えのおかげで夢を叶えることができた。また、どんな状況でも自分の気持ちを信じ続けることが大切だと学んだ。

これから一人の神道人として常に感謝の気持ちを持ち、神様と人をつなぐお手伝いができるように努めていきたいと思う。4年間ご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。

すべてに意味がある

国文学科 大喜多 佑斗

就職先 福岡市中学校(国語)



高校の担任の先生に「教師になる」と誓った日から、はや4年が経つ。

国文学科生らしくこの4年間を比喻で表現するならば、「まるでパズルのようだった」である。本当に多くの経験をした。小、中高の国語及び書道の教職課程を履修し、剣道部主将を務め、半ば書道と出会い、倉志会*に入り、そして万葉集の浦島伝説の亀の省略について夢中で研究した。まだまだある。なんと濃い4年間だったのだろう。密だった。でもそれが楽しかった。もちろん、幾度も無駄かもしれないと思った。しかし決して無駄ではなかった。一つひとつのピースはいつか必ずどこかでパチッと合い、繋がりが、広がっていくのである。人との出会いも同じことがいえる。私の場合、それらのピースは教員の道へと繋がっていたのだと思う。

30年、40年後、私のパズルはきっと壮大なものになっているだろう。

*中高教員をめざす学生をサポートする勉強会

夢への一步を踏み出せた

国史学科 手倉森 結南

進学先 学習院大学大学院



皇學館大学での4年間は本当に楽しく、充実した学生生活を送ることができた。

ここでの大学生活の中で、私は多くの人々との出会いに恵まれた。また、多くの研究会に参加することで、後輩や先生方との交流をたくさん行うことができた。幕末の思想史を通じて学ぶことができた人生の生き方や、近世、近代のくずし字を読む力はこの先の私の大切な財産である。

先生や友達など多くの人々との出会いを通じて、私は自分の夢を叶えるための一步を踏み出すことができた。大学院では皇學館大学で学んだあらゆることを糧にして、より一層自分自身の力を高めていきたい。

4年間指導していただいた先生方、学芸員になるための知識や技術を教えていただいた先生方、本当にありがとうございました。皇學館大学に入学することができて、本当に良かったです。

自主的に学ぶ力が身に付いた

コミュニケーション学科 曾根 萌里

就職先 株式会社百五銀行



大学生活の4年間は本当にあっという間だった。入学当初は、海外留学をして外国の文化を学びたいと考えていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で思い描いていたようにはいかなかった。

海外留学ができなかったという心残りはあるものの、コミュニケーション学科で過ごした時間は私の人生において良い経験になったと自信を持って言える。特に良い経験になったのは、自主的に学ぶ力を身に付けることができた点だと思う。わからない部分は積極的に先生方に質問し、課題は言われた以上にやることを心がけた。この力は、卒業論文制作時や就職活動の際にも役立ったと思う。また、なんでも相談できる先生や友人と出会えて良かったと思う。学業の悩みはもちろん、就職活動での悩みにも親身になって共に考え、アドバイスをくださった先生方や友人達に出会えて、本当に良かったと心から思っている。

出会った仲間、身に付けた力は宝物

教育学科 岡田 蓮

就職先 三重県小学校教員



大学生生活4年間は、本当にあっという間に過ぎたと感じる。入学当初は、授業のことや就職に関する事、部活選びなど、分からないことだらけの中、近くにいた仲間や先輩方に支えられ、少しずつ大学生活に慣れていった日々が、つい最近のこのように思い返される。それほど、大学生活の中では自ずと色々な経験を積み、充実していたのだと思う。

大学に入る前から、将来は教員になるという思いを持ち、入学後も本学で出会った先生方や仲間たちと過ごす中でその思いはさらに強くなっていった。本学は、教員採用試験対策も、教員になった後に生きる実践力をつける講座も充実している。授業や「つばさ」*をはじめ、本学で出会った仲間や、身に付けた力は私の大切な宝物となった。それらの経験を活かし、4月から教壇に立つ。

*小学校教員をめざす学生をサポートする勉強会

人生で一番充実した時間

現代日本社会学科 清水 亜美

就職先 三重県警察 警察事務



皇學館大学で過ごした4年間はこれまでの人生の中で一番充実した時間であった。

1年生から4年生にかけて参加したCLL活動*やゼミでの班活動、実習を通して主体的な姿勢が身に付いた。他者と協力しながら一つのことを成し遂げる難しさを感じるとともに、力を合わせることでより良いものを作り上げられることを知った。また、現代日本社会学部では社会のリアルな現状や様々な課題を知り、その解決策を考えることの難しさや多角的な視点を持つことの大切さを学んだ。

大学生活の中で悩みを抱えることもあったが、友人や先生方、両親などたくさんの方に支えていただき乗り越えることができた。支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、皇學館大学での経験を大切にしながら、社会人として地域に貢献できるように努めたい。ご指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。

*地域課題について体験を通じて学ぶ学修プログラム(本紙4面・K-5いふ2面参照)

かけがえのない日々に感謝して

神道学専攻科 奥谷 啓太

奉職先 神宮



神道学専攻科で学ばせていただいたこの1年は本当に貴重でかけがえのないものであった。以前の大学での日本近代哲学の研究から、はじめは学問的興味から神道を志したが、入学後は驚きの連続であった。祭式後、慣れない正座で痺れた脚をさすりながら机に向かう日々、自身を見失いそうになったことを思い出す。しかしそんな日々を乗り越えられたのもご指導くださった皇學館大学の先生方、そして専攻科生や学部生のおかげであった。皇學館大学での学びと出会いによって私は神明奉仕の尊さに気づき、神職を志すようになった。幸いなことにご縁を賜って、修了後は神職として奉仕させていただけることとなった。まだまだ未熟な人間ではあるが、奉職後も皇學館大学の精神を忘れず、誠心誠意御奉仕させていただきたい。最後にコロナ禍にあって、私たちに学びの機会をくださった全ての方々に改めて御礼申し上げたい。本当にありがとうございました。

感謝

大学院博士前期課程神道学専攻 近藤 嵩脩

奉職先 熱田神宮



皇學館大学で送った6年間の学生生活は、思い出というにはあまりにも大きなものでした。様々な出会いを経て多くの学びを得、こうして卒業を迎えられることに、今は胸がいっぱいです。限られた紙幅の中で言えることは、この6年間でお世話になった方々への感謝のみです。どんな時も親身に寄り添い、丁寧なご指導と温かい励ましの言葉を頂きました指導教員の中山郁先生をはじめ、研究や普段の生活についても相談に乗ってくださった先輩方、友人諸兄との交友、そして両親の支えなくして、今の自分はありません。この大恩は、立派な神職になって、神様へのご奉仕を通じ、生涯を賭して返していきたいと思っています。この先に待つご神縁に思いを馳せつつ、私の大学生生活の振り返りとさせていただきます。

K-らいいふ

全学
一体

Activity Report of 2022

令和4年度活動報告

- 1● 退任によせて
- 2● 令和4年度 CLL活動報告 ほか
- 3● 教学振興会寄付者芳名
- 4● デキゴトロジー

退任によせて

令和4年度に退職された方々から寄せられた
メッセージをご紹介します。

節目の年に

文学部教授 大島 信生



即位礼と大嘗祭」は多くの来場者があり、好評のうちに終えることができました。感謝申し上げます。

私が国文学科の助手として着任したのは、昭和62年4月でした。以来36年間の長きにわたりお世話になりました。

平成21年度からは国文学科主任、平成29年度からは研究開発推進センター長を務めさせていただきました。殊に令和元年に佐川記念神道博物館で開催された特別展「天皇陛下御即位記念

本学の教員であった誇り

教育学部准教授 秋元 雅仁



春霞 たなびく山の 桜花
見れども飽かぬ
君もあるかな

春霞が山々にたなびき、桜花の開花も進み始めた弥生3月、昨日まで全く他人事だった「定年退職」が、夢うつつの中、いつの間にか現実となる日がやって参りました。気がつけば、大学を卒業して以来40年以上も働いてきたことになりました。

兵庫県の公立学校を退職し、伝統ある本学に赴任させていだいてからまる6年。「日々の講義」「学生指導」「地域への貢献」

最後になりましたが、これまで支えていただきました関係各位に心から感謝を申し上げます。

学生諸君、教員と積極的に切磋琢磨を!

文学部教授 川口 雅昭



この3月で皇學館大学の教職アドバイザー、特命教授の任期を終え、伊勢を撤退した。最初の2年間は岩国から月2回の電

てきた研究成果を書籍として発刊できたことは、多少なりとも伝統ある本学に貢献できたのではないかと思っています。

「研究活動と学会発表」等々に専念したあつという間の6年であり、単身赴任生活の寂しさや辛さに苛まれる長い6年でもありました。特に、コロナ禍に見舞われた後半3年間は、学校訪問や学外活動もままなりませんでしたが、学生たちと共に蓄積し

感謝の思いいっぱい

現代日本社会学部助教 尾崎 剛志



コロナウイルスの蔓延と同時に入職し、コロナウイルスが5類に移行する時期に退職をす

るという、皇學館大学のみならず、どの社会においてもこれまでの流れのままでは業務遂行ができないなかでの奉職となりました。様々な行事が中止・縮小・変更となる中、皇學館大学におけるスタンダードを一度も体験することなく退職となること

残念でなりません。そのような中ではありましたが、様々な人に支えられ、教育・研究に従事することができたことについて、感謝の思いいっぱいです。慣れない業務のため、事務担当の皆様にはいろいろとご迷惑をおかけしましたがその都度フォローをいただき、教員の皆様には未熟な部分を補っていただき、教育・研究活動が円滑に進められるようにご配慮いただきました。生活面での心配をしていたいただいた方もおられ、3年間という短い期間ではありましたが、皇學館大学での教員生活を、無事に終えることができました。

4月からは静岡県に拠点を移して新たに教育・研究活動を進めることとなりますが、お世話になった皇學館大学の今後のご発展を心よりお祈りいたします。

かった。数名の学生が研究室に通ってくれ、一緒に英語や教職関係の勉強をした。その中で、一人だけ、将にソウルメイトと感じる学生と出会った。この学生に出会えただけでも伊勢に行った価値があった。天照大御神様に感謝。

ただ、私が学生だった時分と比較して、この学生は、教員との付き合い方を知らない感じがす。学生諸君には、もっともっとと学問をし、教員との積極的な切磋琢磨を希望する。

ゼミ、研究経験は必ず役に立つ

文学部准教授 桐村 喬



平成28年4月の着任以来、7年間お世話になりました。着任当初は2コース体制だったコミユニケーション学科も、平成31

年度からは3コース体制になり、地域情報コースとして、本格的なGIS(地理情報システム)教育を学生のみなさんに提供することができたのは大きな経験です。また、ゼミでは、3年生の夏休みに実施してもらった地域調査の成果を「地域調査

報告書」として1冊にまとめてもらうことができました。ゼミでの調査、研究の経験は、社会に出てからもどこかで必ず役に立つことと期待します。

7年間のうちの後半3年間はコロナ禍で、それまでの4年間と比べると学内のさまざまな行事の進め方やそれ自身が大きく変化してきましたが、この4月からは徐々に元に戻っていくものと思います。対面中心のそれまでの学内の行事は、かえって新鮮なものとなるかもしれません。一方で、コロナ禍で社会が得た、新しい「オンライン」の技術は大学での教育も大きく変えていくものと思います。学生のみなさんには、対面、オンラインのいいところ取りをしながら、社会に羽ばたいてほしいと思います。

教職員人事

令和5年3月31日付

大学

文学部教授	大島 信生	企画部広報担当	北村 典子	退職	高校教頭	中川 幸洋
文学部特別教授	深津 睦夫	出版部主事	上村加奈子	退職	高校教諭	中川 幸洋
文学部特命教授	川口 雅昭	財務部管財担当	川邊 成人	退職	高校教諭	畑中 隆
文学部准教授	桐村 喬	事務嘱託	川邊 成人	退職	高校教諭	平賀 活行
教育学部准教授	秋元 雅仁	総務部総務担当	日比 勝俊	退職	高校教諭	中西 杏奈
現代日本社会学部助教	尾崎 剛志	総務部図書館事務室	北川 靖執	退職	高校養護教諭	野引 美紀
研究開発推進センター助教	浦野 綾子	学生支援部学生担当	新井健太郎	退職	高校常勤講師	上野 章夫
アドミッション・オフィス特命教授	田浦 雅徳	事務嘱託	大木 雅人	退職	高校常勤講師	川口奈緒子
事務局長	木村 成吾	学生支援部学生担当	大木 雅人	退職	中学校常勤講師	東浦 啓子
		事務嘱託	坂口 実優	退職		坂口 実優

令和4年度 CLL活動報告

オーディエンス賞は「伊勢ふちたび」



令和4年10月の活動開始からおよそ半年で大きな成長を見せたメンバー

3月4日、「令和4年度伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム学修成果発表会」が対面・オンライン併用により開催され、第1部として令和4年度CLL活動報告会が行われた。オーディエンス賞にはEVモビリティを活用した伊勢市周遊旅を提案する「伊勢ふちたび」が選ばれた。

新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況がやや落ち着きを取り戻す中、対面・オンラインの併用で開催された今回、聴衆の投票で選ばれたオーディエンス賞には「伊勢ふちたび」EVモビリティを活用した伊勢市周遊促進事業(実施主体は伊勢市観光協会、担当教員は板井正幸文学部教授)が選ばれた。

観光客に電動バイクや電動スクーターを貸し出すサービス「伊勢ふちたび」は、伊勢神宮のみならず二見浦など周辺地域へも足を運んでほしいと伊勢市観光協会と旅行会社「たびぞう」が企画。学生たちはコース設定や映える撮影スポットを選定したほか、課題や改善点、良かった点など自分たちの目線で考えた意見・アイデアを出した。「商品企画」「商品作成」「商品販売」というあらゆる業種に通じる一連の流れを学ぶことで、マーケティングやスタートアップの実際を体感した学生たち。メンバーの田邊恒輝さん(現日3)は「コミュニケーションが不足していると業務が滞るだけではない」と話した。板井教授は「EVモビリティ×観光という新しい切り口を体験的に学ぶことができた。今後の展開が楽しみ」と期待を寄せた。

令和5年度CLL活動は継続の17活動に以下の4つ①「みえ食のふるさとPR」②「伊勢市」商品開発事業(四日市市、南伊勢町)、③「インクルーシブスポーツ推進プロジェクト」共生社会の実現を目指して(伊勢市)、④「だれもが動きやすい企業を表彰!」男女共同参画キラリ☆プロジェクト(伊勢市)、「大学生による」大学生向けこ



実際に試乗したりコースを巡ってアイデアを練ったという



当日は口頭発表が行われ、学外関係者はZoomで参加した

くメンタルにも影響が大きいと身をもって感じた。また、自ら考え、行動することが重要であり、現代社会に欠かせない能力だと思った」と話した。板井教授は「EVモビリティ×観光という新しい切り口を体験的に学ぶことができた。今後の展開が楽しみ」と期待を寄せた。

令和4年度 CLL活動報告書はこちらから

「令和3年度 優良教育実践」表彰者

学部・学科	実践教員	実践の種類	実践の名称
文学部 神道学科	中山 郁 教授	●アクティブ・ラーニング ●反転授業	効果的なグループワークの運用とSAの活用
文学部 国史学科	谷口 裕 信 准教授	●LMS活用	入学準備プログラムへのmanaba courseの導入による基礎学力定着の試み
教育学部 教育学科	大杉 成 喜 教授	●授業改善 ●アクティブ・ラーニング ●LMS活用 ●その他(ICT活用)	ICTを活用した授業・学生指導—manabaとGoogle Workspace—

「令和3年度 職務上の功績 及び 社会貢献」表彰者

学部・学科	氏名	実践内容
文学部 神道学科	高野 裕 基 助教	皇學館大学創立百四十周年・再興六十周年記念事業における記念刊行物・記念展示・記念展示図録等の準備・作業
文学部 国史学科	長谷川 怜 助教	皇學館大学創立百四十周年・再興六十周年記念事業における記念刊行物・記念展示・記念展示図録等の準備・作業

※職位は表彰時

令和4年度 奨学金受賞者

学内奨学金授与

皇學館大学給付奨学金 (10万円)

- 国文学科3年 正木 音羽
- 国史学科3年 山下 拓海
- 教育学科3年 前田 朋香
- 現代日本社会学科3年 石井 陽菜

長谷奨学金 (10万円)

- 神道学科4年 喜舎場朝喬
- 国文学科3年 三宅あゆみ

慶光院俊奨学金 (10万円)

- 神道学科4年 植村 蒼
- 国史学科3年 筒井 啓仁

安部奨学金 (10万円)

- 神道学科4年 松村 壮透
- 国文学科3年 清田 恵愛
- 神道学科2年 姉川 優妃
- 神道学専攻1年 平田 暖乃

館友会奨学金 (10万円)

- 神道学科3年 熊崎 響子
- 国文学科3年 下村 莉奈

専の会教育奨励賞 (図書カード3万円分)

- 神道学科4年 植木 美帆
- 国文学科4年 西岡 愛梨
- 国史学科4年 世古 千夏
- コミュニケーション学科4年 曾根 萌里

伏見稲荷大社奨学金 (24万円)

- 神道学科3年 伊藤 大智
- 神道学科2年 加藤 亜紀

神社本庁育英奨学金 (30万円)

- 神道学科2年 鈴木 秋津
- 神道学科3年 豊田 蒼空
- 神道学専攻博士前期課程2年 久米橋幹太

八坂神社奨学金 (10万円)

- 神道学専攻博士前期課程2年 近藤 喬脩

学外奨学金授与

神宮特別奨学金 (20万円)

- 神道学科4年 岡田 英亮
- 神道学科3年 福田 友也

全国敬神婦人連合会奨学金 (15万円)

- 神道学科3年 杉坂 響子

伏見稲荷大社奨学金 (24万円)

- 神道学科3年 伊藤 大智
- 神道学科2年 加藤 亜紀

令和4年度 奨励賞長

- 団体の部**
 - 書道部 第38回読売書法展 漢字部門で秀逸賞1名、入選8名
 - 駅伝競走部 第34回出場全日本大学選抜駅伝競走大会 15位(10/10)
 - 秩父宮賜杯第54回全日本大学駅伝対校選手権大会出場 21位(11/6)
- 個人の部**
 - 河西一成(国史3) 第61期学友会総務委員長として、学生のクラブ活動活性化に尽力
 - 澤村すず(国文3) 第38回読売書法展 漢字部門で秀逸賞
 - 池邊龍平(国文4) 2022年度日本学生選抜ライフル射撃選手権大会 50mライフル三姿勢60発競技出場、2位(7/15)
 - 高野 当(教育4) 全日本学生柔道体重別選手権大会出場(10/12)
 - 衛藤力也(現日4) 全日本学生柔道体重別選手権大会出場(10/12)
 - 南大志(現日1) 全日本学生柔道体重別選手権大会出場(9/11)
 - 南大介(現日3) 全日本学生柔道体重別選手権大会出場(10/12)
 - 清水佑晟(現日3) 全日本学生柔道体重別選手権大会出場(10/12)
 - 島健輔(現日3) 全日本学生柔道体重別選手権大会出場(10/12)
 - 山村隆斗(教育3) 全日本学生柔道体重別選手権大会出場(10/12)

教学振興会 寄付者芳名

ご挨拶

学校法人皇學館理事長 小串和夫

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。
さて、皇學館大学は、昨年4月に、三笠宮彬子女王殿下御臨席のもと創立百四十周年記念式典を斎行することができました。その建学の精神と目標は、わが国の歴史と文化伝統に根ざした道義と学問を学び、日本人としての正しい自覚を確立し、実社会での運用に努め、世界の文明の発展に貢献する有為の人材育成にあります。

令和4年度ご入会者ご芳名(再継続者含む)

宗教界

企業

- 北海道 旭川神社様
三重県 フコク商事株式会社
岡山県 吉備津神社様
館友 常磐井 武榮様

皇學館 クラブ応援メッセージ募金の御礼

令和4年度も多くの皆様にご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。下表の通り、令和4年度の納入状況及びクラブへの配分金額をご報告させていただきます。

「皇學館クラブ応援メッセージ募金」は、クラブ活動を通して学生・生徒の主体性等を伸ばすために開設しました。ホームページから、支援したいクラブをご指定いただき、募金手続きやメッセージの投稿が可能となっております。

詳細は、右記から公式ホームページ内の寄付金ページにてご確認ください。

令和5年度も、引き続き皆様からのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



Table with 4 columns: 区分, 件数, 納入金額(円). Rows include 令和4年度クラブ応援メッセージ募金納入状況報告 (令和5年3月31日現在).

Table with 4 columns: 指定先クラブ名, 件数, 配分金額(円). Rows include 令和4年度クラブ別配分金額状況.

※各クラブへの配分金額は、寄付金額から手数料を差し引いた金額となっております。

*代行手数料：クレジット会社等の決済代行に伴う手数料。



5月11日に行われた皇學館クラブ応援メッセージ募金授与式

令和4年度 教学振興会寄付金納入状況報告

Summary table comparing donation statistics for Heisei 26 and Reiwa 4 across various categories like 宗教界, 企業, 館友, etc.

誓の会会員

- 宮崎県 黒岩 昭彦様
大分県 橋本 斐素様
山口県 丸茂 広知様
岡山県 岩見屋 正健様
谷村 昌枝様

国文学科

- 綿貫 哲也様
古堅 留美様
吉田 裕史様
宮岡 清容様
三谷 剛史様
細井 達也様
古川 栄子様
布藤 拓也様
福田 真人様
平野 和仁様
日比野 健栄様
林 垂光様
中野 祥史様
豊田 則史様
玉木 博康様
田中 まさ久様

国史学科

- 山崎 亜衣子様
渡部 芳久様
朝倉 ひろ子様
岩島 典彦様
岩田 美香様
岩橋 清志様
大木 弥須子様
大関 浩一様
大田 圭一様
山賀 久幸様
山澤 友路様
米川 佳樹様
若松 和樹様

現代日本社会学科

- 柳田 洋彦様
山本 圭弘様
山下 文洋様
山田 明彦様
山崎 太文様
横山 幸司様

中学校保護者

- 横山 幸司様
横山 幸司様
山本 圭弘様
山下 文洋様
山田 明彦様
山崎 太文様

国文学科

- 水谷 俊樹様
西村 彰様
西村 彰様
玉置 正英様
高原 勝俊様
三瓶 俊智様
佐々木 智浩様
酒井 浩紀様
伊藤 紀子様
伊藤 紀子様
濱口 重武様
筒井 洋一様
田中 満典様
世古 善栄様
小久保 雅広様
川島 孝之様
梶本 康文様
河野 栄二様
甲斐 也一様
大田 圭一様
大関 浩一様
大田 圭一様

国史学科

- 田中 啓介様
服部 弓路様
濱井 哲次様
林 憲次様
藤田 亮憲様
松尾 弘毅様
水谷 清治様
山賀 久幸様
山澤 友路様
米川 佳樹様
若松 和樹様

現代日本社会学科

- 横山 幸司様
横山 幸司様
山本 圭弘様
山下 文洋様
山田 明彦様
山崎 太文様

中学校保護者

- 横山 幸司様
横山 幸司様
山本 圭弘様
山下 文洋様
山田 明彦様
山崎 太文様

高等学校保護者

- 泉 秀明様
上田 ちずみ様
大東 啓明様
岡田 悠啓様
北岡 広様
楠木 孝道様
佐藤 昭様
河野 直昭様
川口 雅俊様
川口 雅俊様
川口 雅俊様

本法人関係

- 川喜田 尚一様
森口 尚一様

一般(篤志家等)

- 別所 治様
藤田 和様
坂谷 智紀様
北川 利奈様
太田 雅也様
宇田 陽一様
牛場 正人様
家田 英樹様
阿藤 正樹様

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名の掲載を希望されない方については、別記とさせていただきます。
●企業1社 ●館友4名 ●一般(篤志家等)2名 ●誓の会会員31名
●高等学校保護者15名 ●中学校保護者5名 ●本法人関係35名

令和4年度 デキゴトロジ 行事日誌

大 学

Table of university events from April to June. Includes dates and descriptions of various lectures, seminars, and activities.

Table of university events from July to September. Includes dates and descriptions of events such as parent-teacher meetings, cultural lectures, and student activities.

Table of university events from October to December. Includes dates and descriptions of year-end activities, conferences, and special events.

高 校

Table of high school events from April to June. Includes dates and descriptions of school activities, sports events, and academic programs.

中 学

Table of middle school events from April to June. Includes dates and descriptions of school activities, sports events, and academic programs.

Table of middle school events from July to September. Includes dates and descriptions of school activities, sports events, and academic programs.